国語科学習指導本時案

授業者 宮脇 隼

日時:2018年10月27日(土)第1校時(9:30~10:15)

対象:第6学年B組 30人

場所:6年B組教室

本時の主張点

筆者の表現方法を分類することで,表現方法や効果に目を向け,自身の文章に使い

たい表現を意図を明確にして選択する子が育つだろう。

1. 本時について

本時では、筆者の表現方法とその効果について分類する学習を行う。明確な根拠をもって分類することで、第3次における自身の宝物への想いを文章化する際の指針としたい。また、分類することで明確な意図をもって表現方法を選択し活用する子どもたちに育つと考えている。分類するための視点としては、【①筆者の表現方法】【②表現方法が生み出す効果】【③対象(=自分の宝物)に合った表現方法】が考えられる。本時では、子どもたちの視点を①から②へと変化させたい。①は叙述をもとにしているため、子どもたちはこれまでの学習をもとに分類することはそれほど難しくないだろう。しかし、それを分類するだけでは第3次での書く活動へはつながらない。自身の書くべき対象を明確にし、対象の素晴らしさや自己の想いを効果的に表現するためには、筆者の表現を読者の視点でどのような効果として受け止めるのかが重要となる。①から始まった分類が②の分類へと変化していくところに本時における学びの深まりがあると考えている。

2. 本時における探究的な学びと省察性の働き

本時における探究的な学びは、筆者の表現方法を分類していく活動にある。筆者の表現方法を分類していく中で、表現方法が生み出す効果へと分類の視点を変容させたい。そのためには、子どもたちが省察性を働かせる必要がある。見通しをもたせ、ゴールを意識させたい。具体的な手立てとして、単元を通して「ほんまもんの課題(パフォーマンス課題)」と「ルーブリック」を設定する。本時においても、ルーブリックを意識させる。本時におけるルーブリックは、第2次で子どもたちと設定する。教師から与えるルーブリックはB評価のものを与え、A評価は子どもたちと作っていく。子どもたちには、どのような自分なりの表現方法を選べば、自分たちが書く活動で活用しやすいかという切り口で考えさせたい。そのルーブリックが、本時における子どもの省察性を働かせるために有効と考えている。

3. 探究的な学びを支える授業のしかけ

子どもたちが、分類の視点を変容させるためには、子どもたちの発言の一つ一つがどの視点で語られているかを明確にする必要がある。それらの発言を教師が板書として可視化していく。子どもの発言の主語を明確にすることや、子どもの発言を立ち止まり全体に広げることで共有化を図っていきたい。また、本時におけるルーブリックも探究力や省察生を生み出すしかけとしている。

4. 育みたい資質・能力

探究力	省察性
・ 筆者の表現方法やそれから生み出される効果	ルーブリックを意識し、自身の対象にあった
に着目し、自身の対象にあった表現方法を考	表現方法を効果の妥当性を考える力(推敲力
える力(推敲力)	を支える省察性)

5. 本時の目標

筆者の表現方法だけではなく、その表現方法が生み出す効果について考え、自身の対象(宝物)に合った表現方法の選択に関連させることができる。

6. 本時の展開

	学	習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
1. 本時の課題を確認する。		時の課題を確認する。	
	「表現の工夫を分類して、自分の文章に合うものを見つけよう」		章に合うものを見つけよう」

- 2. 筆者の表現方法や効果に着目しながら分類する。
 - ・台詞から始まる文章の書き方は,読者の興味 を引くよね。
 - ・筆者が思ったことと,鳥獣戯画を見るとわか ることでは,書き方が違うよね。
 - ・細かいところまでよく見ているのは、宝物への想いを感じることができるな。
- ※分類したい効果例

【読者の興味を引くため】【自分の想いを伝える ため】【「鳥獣戯画」だから使えたもの】

- 3. 自身の文章に合う表現方法を考える。
 - 「ページをめくってごらん。」は面白いけど、 僕の文章には使えないかな。
 - ・私が書くときも、宝物になりきって台詞を考えてみようかな。

- ルーブリックの確認をする。
- ・筆者の表現方法は叙述をもとにしてクラス全体で 共有できるように発言させる。
- ・一人一人の発言が、筆者の表現についてなのか、 その効果についてなのか発言の方法を明確にさせ る。
- ・子どもたちの発言を、構造的に板書する。

・使いたい表現方法と効果が、自身の対象にふさわ しいものを選んでいるか根拠を明確にさせる。

思・力・表

自分なりの根拠を明確にしながら、使いたい表現方 法と効果を選択している。